



8月21日は「献血の日」

「はたちの献血」特に年明け頃によく耳にしますが、皆様、この「献血」に貢献したことはありますか？

献血の始まりは1964年(昭和39年)の8月21日。日本政府が『輸血用血液を献血により確保する体制を確立』する事を閣議決定しました。この事から毎年8月21日は『献血の日』とされています。

と言われても「さて献血…血を取られるのはわかるけどいったいどんな流れなんだ」やら「バスは見たことある」やら「なにやらアイス食べられるらしい」と色々な意見はあるかと思います。少しでもその疑問解決へ手助けとなったら幸いです。

●献血。いったいどんな流れで行っているのか。

1. 献血受付
2. 体重測定／質問への回答
3. 問診／血圧・脈拍測定／体温測定
4. ヘモグロビン濃度測定／血液型事前検査
5. 採血
6. 休憩（献血終了）

以上が大まかな流れとなります。

また、献血終了後、極稀に急な血圧変化により気分不良になる場合があります。

トイレや階段・戸外での歩行などには特に注意してください。



●「できない」と言われる条件は何か

決心を固め、心臓が飛び出そうになりながらも向かった先で「これだと献血できません」なんて言われた日にはもう心が折れ、立ち直れそうにありませんよね。先に条件を知っておけばそのような状況も回避できるかと思います。

1. 当日の体調不良、服薬中※、発熱の方
2. 出血を伴う歯科治療(歯石除去を含む)を受けた方
3. 一定期間内に予防接種を受けた方
4. 6ヶ月以内にピアスの穴をあけた、またはピアスを付けた方
5. 外傷ある方
6. 動物又は人にかまれた方
7. 海外旅行者および海外で生活したことがある方
8. 輸血歴・臓器移植のある方
9. 妊娠中、授乳中の方
10. 新型コロナウイルスの検査を受けた、診断された方

※内服していても特に支障のない薬は、ビタミン剤およびごく一般的な胃腸薬などの類。それ以外は病気の種類や薬の種類によって献血をご遠慮いただくことがあります。また、外用薬、坐薬、点眼または点鼻薬でも、その内容により献血できない場合があります、その判断は医師が行います。

他にも献血前の測定で残念ながら基準に満たないと診断されると献血できませんが、ご本人の安全を守るためでもありますので、気を落とさずに。



●献血場所はどこか

それではいざ、会場へ行こう！と決意を固めた時、献血場所はどんなところがあるかご存知でしょうか？大きく会場は2種類あります。

献血ルームと呼ばれる学校や会社帰りに訪れやすい献血ルームが全国各地に常設されている所と、献血バスと呼ばれる全国各地で毎日運行されている献血バスです。バスの場合、赤十字社のサイトから、本日までで開催されているかを確認することができます。新潟県の場合、事前に予約をすると尚スムーズに受付ができるようです。

●献血、その後

さて、貢献した血液。いったいどのようにして医療機関へ運ばれ、使用されているのでしょうか？

血液は、献血会場から各地のブロック血液センターに運搬され、精密な検査や血液成分ごとに分離が行われて血液製剤となり、適切な温度下で保管されます。医療機関からの要請に対応できる体制を整えており、患者さんが必要とする時に血液が届けられます。

輸血用血液製剤の多くは、不慮の事故等に伴うものではなく、がん(悪性新生物)の患者さんの治療に使用されています。

また、使用する方の約88%は50歳以上です。

いかがでしょうか。大まかな献血の話は以上となります。より詳しく知りたい方は日本赤十字社公式のサイトやSNS各種をのぞいてみるといいかもしれません。

参照 日本赤十字社 <https://www.jrc.or.jp/>

作成 ケンユウきずな薬局